

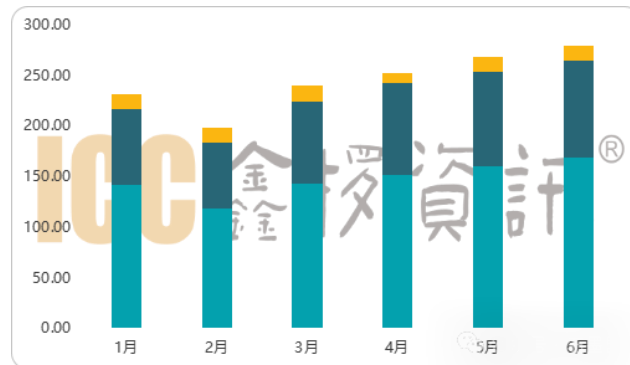
CMI 株式会社

横浜市鶴見区鶴見中央2-12-30-105

TEL: 045-717-8575 FAX: 045-717~8683

2026 年上半期 世界の負極材料市場の動向

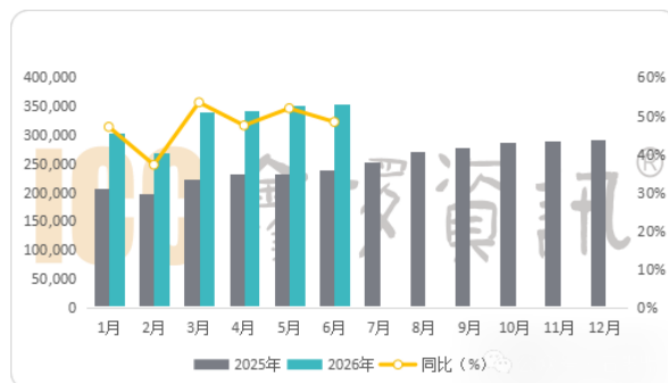
2026 年上半期、世界のリチウムイオン電池市場は、動力（EV）と蓄電（ESS）向けの需要に牽引され、生産量と出荷量が大幅な増加を記録した。ICC 資訊のデータによると、同期間の世界のリチウム電池生産量は前年同期比 48.79%増の 1,470.83GWh であり、蓄電市場向け出荷量は同 97.5%増の 507.8GWh に達した。



出典：ICC 資訊

図 1. 世界のリチウムイオン電池月次生産量実績（2026 年上半期、GWh）

この電池市場の急成長に伴い、同期間における世界の負極材生産量も前年同期比約 50%増の 195.5 万トンへと大幅に拡大した。



出典：ICC 資訊

図 2. 世界のリチウムイオン電池用負極の月次生産量実績（2026 年上半期、トン）

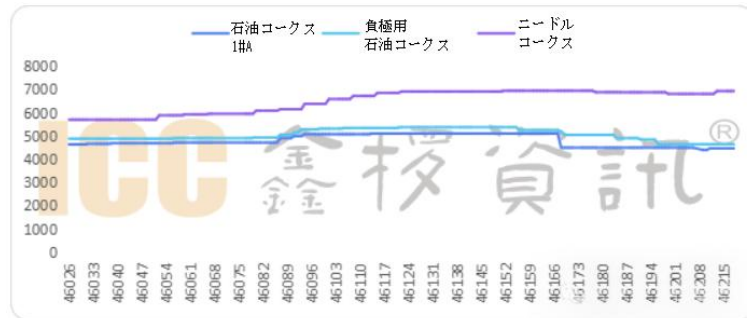
リチウムイオン電池用負極材業界の上位 10 社はほぼフル生産を維持した。特に高品質な負極材の供給不足が顕著となったため、負極材メーカーは原料費や黒鉛化加工費の上昇分を下流企業に転嫁した。その結果、中小電池メーカー向けの調達価格は約 1,000～3,000 円/トン（約 2.42～7.25 万円/トン、1 円≒24.15 円換算）上昇し、大手電池メーカー向けでも 1,000 円/トン（約 2.42 万円/ト

CMI 株式会社

横浜市鶴見区鶴見中央2-12-30-105

TEL: 045-717-8575 FAX: 045-717~8683

ン)の値上がりが見られた。これにより、コスト高に苦しんでいた負極材メーカーの収益圧力は大幅に緩和された。

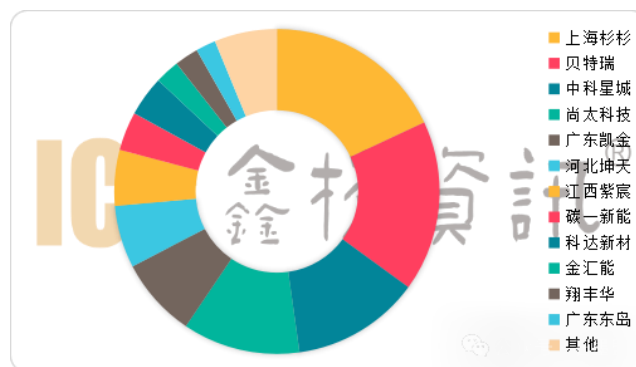


出典：ICC 資訊

図 3. 負極材原料の価格推移 (2026 年上半期、元/トン)

材料別で見ると、上半期における人造黒鉛系負極材の市場シェアは前年同期比 3 ポイント上昇の 95%に達した。シリコン系負極材は、大型円筒形車載用電池への本格搭載や、ハイエンドなデジタル機器・電動工具向けの需要拡大により出荷量が増加した。また、ハードカーボン負極についても、蓄電向けの需要拡大に後押しされて本格的な大量出荷が始まった。

人造黒鉛系負極材のメーカーシェアでは、上海杉杉(Shanshan)が引き続き首位を維持し、貝特瑞(BTR)、中科星城(ShinZoom)、尚太科技(Shangtai Tech)、広東凱金(Kaijin)がそれに続き、主要各社の順位は前年同期から横ばいとなった。なお、上位 5 社 (CR5) の合計シェアは 67.2%に達したものの、前年同期比ではわずかに減少した。



出典：ICC 資訊

図 4. 負極材業界の市場構造 (2026 年上半期)

総合的に見れば、2026 年通期の負極材業界の収益性は顕著に改善される見込みである。また、下半期の世界のリチウムイオン電池市場は、上半期比で約 18%の成長予測となっている。

情報源：石墨盟